

第22回
外国人による
日本語スピーチコンテスト

2013年2月16日（土）午後 1:00 ～4:30
ところ： 県民文化センター小ホール
主催： 公益財団法人 茨城県国際交流協会
共催： 茨城県

* 茨城県知事賞

セポン セシメ バクミナ (ベナン出身)

「子供時代の普遍」

わたしは地球の裏側から来たバクミナです。

これは冗談ではありません。飛行機で18時間ぐらいかかります。その小さくて、とてもきれいな西アフリカの国はベナンと言います。ベナンで太陽が昇るとき、日本は日が沈みます。

今日は子供時代の普遍について話したいと思います。

日本で私は新しい生活を毎日毎日発見しています。物事は全く違います。天気も寒いし、食べ物の作り方も面白いし、文化もぜんぜん違います。

そして、それぞれを自分の頭に毎日ゆっくり受け入れています。でも一つのことはベナンと変わりません。これを見ると、とても幸せになりました。皆さん、それが何かわかりますか。それはもちろん子供のことですね。

じつは私は子供が大好きです。自分の子供はまだですが、将来3人産みたいです。この小さいエンジェルを見ているとすぐ気持ち良くなります。ベナンの子供と日本の子供の違うところは着ているものと言葉だけです。

子供たちは同じように振舞います。例えば店の中の甘い物とかおもちゃなどに興味があります。きょろきょろして「買って家に持って行きたいなあ」と思いますね。そのほかにはレストランとかファストフードで最初にジュースから始めるつもりですね。でも母親はそれをさせません。

ある日散歩しているとき、大声で笑っている声が聞こえるけど、どこからその声が来るのかわかりませんでした。よく探すと近くに公園がありました。その日はだれかの誕生日かわかりませんが、子供が多かったです。みんなばらばらで喋ったり遊んだりしていました。ベナンと同じ遊びをやっていました。例えばケンケンパや滑り台やかくれんぼなどです。

私は静かにベンチに座りました。その光景を見ていると時空が無くなりました。何時間ぐらいそこにいたのか忘れましたが、まわりが静かになるとすぐ気がつきました。

「何があったの？」

すぐわかりました。ケーキの時間でした。

黄色人種も黒人も白人も子供たちは同じことに泣いて、同じことに笑って、同じように学校がきらいでも友達が守ってくれます。

数年後彼らは日本人とかアフリカ人とかヨーロッパ人になります。しかし、今はみんな子供です。幼い心で人生を送っていますので何も気にしません。

ベナンとぜんぜん違う日本で生活することは毎日毎日とても大変です。でも子供たちの目の中に私は日本の風土に慣れる力を見つけることができそうです。